

●発行者：財団法人安田火災記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL03-3349-3130 FAX03-3349-3133 <http://www.yasuda.co.jp/foundation/> E-Mail:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

## 平成13年度社会福祉助成（NPO法人設立資金助成）

### 全国100団体に3,000万円の助成決定！！

本年度で3回目を迎える「NPO法人設立資金助成(社会福祉助成)」は全国的に非常に要望が高く、本年度も271件の申込みを受け付け、去る5月24日開催の選考委員会において慎重かつ真剣な審査が行われた結果、3ページ記載の100団体に総額3,000万円の助成が決定しました。(1団体当り30万円)

贈呈式は、関東地区は7月4日本社にて(写真:有吉理事長と助成先代表の日本自閉症茨城県支部の細川さん)、それ以外の地区は助成先の最寄りの支店主催にて開催されます。



#### \*\*\* 本年度の応募傾向 \*\*\*

#### 1. 助成の申込が全国に広がってきています

これまでに1件も申込みのないのは香川県、1件だけの申込みは秋田県、山梨県、大分県となっていますが、年々地域の広がりを見せており、北は北海道から南は沖縄まで大都市を中心に応募を受け付けています。

#### 2. 福祉系の団体の活動内容はますます多様化

従来からの障害者や高齢者の在宅福祉活動に加え、  
-障害者の音楽、絵画、舞踊、陶芸といった文化・芸術活動  
-障害者スポーツを中心とした活動  
-障害者と動物とのふれあいを通じたアニマルセラピー活動  
-ファッションやお化粧を通してのユニバーサルファッション活動  
-障害者のパソコン教室やパソコン技術を通しての就労支援活動  
-子ども達の心の病や障害に対する活動  
など多種多様なNPO活動が各地でパワーフルに展開されています。

#### 3. 高齢者・障害者の介護団体はますます増加

NPO法人格を取得することで行政から「介護保険事業者」としての資格取得を目指している団体は増加の一途をたどっています。

#### 4. 当財団の助成情報の入手は「ホームページ」

これまで各市町村の社会福祉協議会から助成情報を入手して応募してくるケースがトップでしたが、本年度は当財団のホームページからの情報入手による応募がトップとなっています。

したが、本年度は当財団のホームページからの情報入手による応募がトップとなっています。  
 当財団ホームページへの1カ月のアクセス件数は1万件を超えていますが、今やNPO等を含め  
 インターネットの普及と情報源としての凄さに驚かされます。

5. 当財団の助成情報を「代理店さんに教えてもらった」という団体も増えてきています。

**ミニ知識**

**NPO法人(特定非営利活動法人)の動き**

これまで法人化しようとしても費用や諸手続の問題で簡単に法人化できず、任意団体として活動してきたボランティア団体などが、比較的簡単な手続きで法人化できる法律が平成10年12月に成立し、平成11年4月から設立が始まりました。

それが「NPO法人(特定非営利活動法人)」で、本年6月末で約4,500法人が各都道府県知事から認証を得て活発に活動しています。

NPO法人の活動分野は「保健・医療・福祉」「社会教育」「まちづくり」「環境」「国際協力」「子どもの健全育成」等の12分野に限定されていますが、これまでに設立された4,500法人の約63%にあたる2,800法人が「保健・医療・福祉」を事業目的とした法人です。

NPOの活動は、20世紀までわが国の発展を支えてきた「国」と「企業」に加え、21世紀のわが国の成長を支える第3の担い手として大きく期待され、上記法律の制定を含め、国も挙げてその育成に取り組んでいるところです。

法人格(NPO法人)を取得することで組織基盤を強化し社会的信用を得て、行政からの委託事業を受託する等活動範囲を広げることが可能な反面、法人としての組織運営・管理の責任も課せられています。

非営利の任意団体がNPO法人としての法人格を取得していく動きは、まだまだ増加傾向にあり、特に地方分権、少子高齢化時代のわが国の福祉分野における担い手としてのNPO法人の活動は、必要不可欠なものとなりその重要性はますます高まっています。今後は行政とNPO法人、企業とNPO法人とが協働して取り組む事業展開や雇用の新たな創造と言った面からも期待が寄せられているところでもあります。

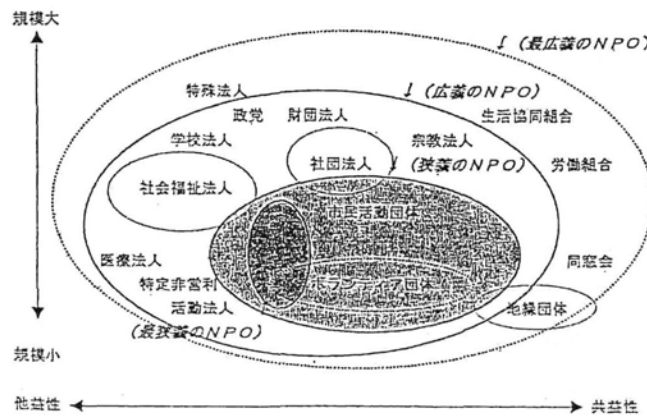
当財団では、この流れをいち早く助成事業に組み込み、NPO法人の設立に対する助成を行ってきていますが、今後も社会的要請に応えるべく引き続き継続実施してまいります。

**みなさんの周りにも、このような団体があれば**

**情報を提供してあげましょう!!**

**NPOの概念構成**

(地域福祉における非営利民間団体に関する研究報告書 2001年3月刊 1頁早瀬昇氏より)



【図1-1】「NPO」の概念構成 (山岡義典氏の整理をもとに、早瀬が修正)

平成13年度 社会福祉（NPO法人設立資金）助成金 助成先一覧

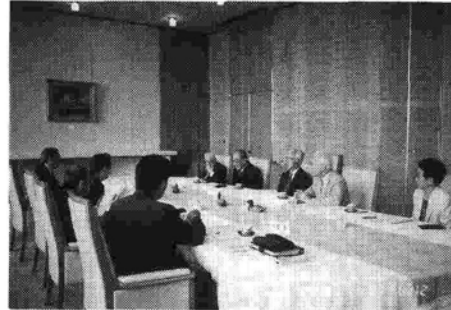
都道府県	団体名	都道府県	団体名
1 北海道	ボランティア 杜の家	26 埼玉	介護サークル かがやき
2 北海道	ニセコがんば	27 千葉	こぼと治療教育センター
3 北海道	江別手をつなぐ親の会	28 千葉	鎌ヶ谷放課後クラブ「きらら」
4 北海道	栗山町手をつなぐ親の会	29 千葉	スペース海
5 北海道	言語障害児をもつ親の会北海道協議会	30 東京	障害者生活支援センターインみたか
6 北海道	地域生活応援センター 共生舎	31 東京	町田市精神障害者家族会
7 北海道	めいぶる共同作業所運営委員会	32 東京	ピープルファーストはなし合おう会
8 岩手	岩手県不登校を考える父母会	33 東京	すみだ送迎サービスかめの会
9 宮城	ファミリーサポート「さいしょはグー！」	34 東京	スペース楽 運営委員会
10 宮城	ホームひなたぼっこ	35 東京	テクノシップ
11 宮城	日本ケアシステム協会まごころサービス塩釜センター	36 東京	国際障害者スポーツ写真連絡協議会
12 宮城	杜の伝言板ゆるる	37 東京	あゆみの会
13 秋田	秋田いのちの電話	38 東京	ハッピーライフ フォーエバー
14 山形	市民互助型在宅サービスかたくりの会	39 東京	あん工房(精神障害者共同作業所)
15 福島	障がい者自立生活支援センター「福祉のまちづくりの会」	40 東京	全国精神障害者地域生活支援協議会
16 福島	いわき地域生活者家族の会	41 東京	東京都中途失聴・難聴者協会
17 茨城	日本自閉症協会茨城県支部	42 東京	日本ASL協会
18 茨城	アニマル・サイン・グループ	43 東京	バリアフリーセンター福祉ネット「ナナの家」
19 栃木	もうひとつの美術館設立準備会	44 神奈川	わになろう会(障害児に進路を保障する川崎連絡協議会)
20 栃木	とちぎおもちゃ図書館	45 神奈川	たけのこ会
21 群馬	UP TO DATE	46 神奈川	ワーカーズ・コレクティブ「あい」
22 群馬	パソボラ・サポート群馬	47 神奈川	かなざわ・まごころの会
23 群馬	沼田市手をつなぐ親の会	48 神奈川	地域生活サポート まいんど
24 埼玉	茜の里	49 神奈川	あやせワーカーズ・コレクティブ「さつき」
25 埼玉	たすけあいボランティアほっとライン小川	50 神奈川	宅老所 ひなたぼっこ

51 神奈川	ワーカーズコレクティブ「キャリアジョイ」	76 大阪	障害者自立生活援助センターとよなか
52 神奈川	ライフ・サポート・コーディネーティング ワーカーズコレクティブ樹	77 大阪	大阪重症心身障害児者を支える会
53 新潟	塩沢町身体障害者福祉協会	78 兵庫	サニーサイド作業所障害者生活支援事業部
54 富山	くろべエ工房	79 兵庫	ゆいま～る神戸
55 富山	おむすび	80 兵庫	地域生活支援センター わくわく
56 石川	障害者自立センター	81 兵庫	アップストリーム作業所
57 福井	ビハーラ福井	82 兵庫	東灘・地域助け合いネットワーク
58 山梨	生活介護支援 くまちゃん	83 奈良	エイズ資料館(奈良HIV情報センター)
59 長野	在宅介護支援 蓼科ハウス	84 島根	あいの会
60 岐阜	あんきや 介助移動サービス	85 岡山	チャレンジハウス じゃがいもの木
61 愛知	NPOエスベランサ	86 広島	特定非営活動法人「グループ凜」
62 愛知	生活支援サービス ふいーる工房	87 愛媛	障害者の自立支援センター
63 愛知	アスペ・エルデの会	88 福岡	痴呆老人をかかえる家族の会
64 愛知	たんぽぽハウス	89 福岡	二葉園
65 三重	ふれあいステーション都美恵	90 福岡	NPOあおぞら北九州設立準備室
66 滋賀	NPOワイワイあぼしクラブ	91 福岡	白百合作業所
67 滋賀	滋賀県難病連絡協議会	92 佐賀	それいゆ
68 京都	ネットワーク すてっぷ	93 長崎	Cotton Plants
69 京都	京都市難聴者協会	94 熊本	全国言語障害児をもつ親の会九州ブロック
70 京都	コンポール	95 宮崎	特定非営利活動法人 メイツ
71 大阪	枚方市肢体不自由児(者)父母の会	96 宮崎	宮崎県ボランティア協会
72 大阪	太子たすけあい コスモス	97 鹿児島	奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」
73 大阪	豊中総合福祉支援センター	98 沖縄	精神保健と福祉を考える市民グループ「ミラソル会」
74 大阪	簡易通所授産所 のぞみ園	99 沖縄	訪問介護 きづきチーム
75 大阪	豊中市障害者就労促進連絡会	100 沖縄	特定非営利活動法人 ゆいまーる

# 平成12年度決算 可決される

6月12日開催の理事会において、平成12年度の収支決算が原案どおり承認可決されました。

当財団設立以来の助成金等事業費総額は、約15億円、その内訳は社会福祉事業に約10億円、福祉諸科学事業（学術研究等）に約5億円となっています。



## 平成12年度収支計算書（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

科 目			12年度	12年度	差 額	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	予 算 額	決 算 額		
<b>I. 収入の部</b>						
1. 基本財産運用収入			12,000,000	14,020,044	△2,020,044	
2. 寄付金収入			93,000,000	103,635,505	△10,635,505	寄付金増加
3. 雑収入	受 取 利 息		200,000	620,188	△420,188	
4. 基本財産収入			20,000,000	20,000,000	0	
当期収入合計(A)			125,200,000	138,275,737	△13,075,737	
前期繰越収支差額			16,872,691	45,454,128	△28,581,437	(注)
収入合計(B)			142,072,691	183,729,865	△41,657,174	
<b>II. 支出の部</b>						
<b>1. 事業費</b>						
	社会福祉事業	助成金	45,000,000	42,000,000	3,000,000	
		諸費用	3,000,000	2,933,924	66,076	
	(小計)		48,000,000	44,933,924	3,066,076	
	福祉諸科学事業費	助成金	2,000,000	0	2,000,000	
		諸謝金	7,000,000	4,077,760	2,922,240	研究会の休会
		刊行物関係	2,000,000	1,659,370	340,630	講演会なし
		諸費用	4,000,000	2,930,570	1,069,430	
	(小計)		15,000,000	8,667,700	6,332,300	
	文献表彰事業費		8,000,000	6,961,104	1,038,896	
	(小計)		8,000,000	6,961,104	1,038,896	
	(事業費計)		71,000,000	60,562,728	10,437,272	
<b>2. 管理費</b>						
	人件費	給与等	18,000,000	21,079,619	△3,079,619	退職金支払増
	物件費	会合費	2,200,000	1,384,004	815,996	
		旅費交通費	200,000	166,020	33,980	
		通信費	500,000	368,219	131,781	
		消耗品費	300,000	188,451	111,549	
		図書費	200,000	198,571	1,429	
		備品費	300,000	118,330	181,670	
		資産管理費	500,000	570,566	△70,566	
		印刷製本費	200,000	159,180	40,820	
		光熱費	200,000	201,989	△1,989	
		賃借料	500,000	353,010	146,990	
		調査費	100,000	81,000	19,000	
		諸会費	500,000	496,882	3,118	
		雑費	2,300,000	2,021,053	278,947	投資顧問料減
	(小計)		8,000,000	6,307,275	1,692,725	
	(管理費計)		26,000,000	27,386,894	△1,386,894	
<b>3. 基本財産支出</b>						
	投資有価証券購入		20,000,000	0	20,000,000	
	普通預金設定		0	20,000,000	△20,000,000	
<b>4. その他固定資産支出</b>						
	什器備品購入		0	303,765	△303,765	パソコン購入
	退職給与引当預金		100,000	50,000	50,000	
<b>5. 予備費</b>						
	当期支出合計(C)		127,100,000	108,303,387	18,796,613	
	当期収支差額(A-C)		△1,900,000	29,972,350	△31,872,350	
	次期繰越収支差額(B-C)		14,972,691	75,426,478	△60,453,787	

平成13年度貸借対照表(平成13年4月1日)

(単位:円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	27,434,389	
有価証券	58,272,494	
流動資産合計		85,706,883
2. 固定資産		
基本財産		
投資有価証券	749,558,400	
定期預金	120,441,600	
普通預金	20,000,000	
基本財産合計	890,000,000	
その他固定資産		
什器備品	683,604	
退職給与引当預金	150,000	
その他の固定資産合計	833,604	
固定資産合計		890,833,604
資産合計		976,540,487
II. 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	10,104,695	
預り金	175,710	
流動負債合計		10,280,405
2. 固定負債		
退職給与引当金	150,000	
固定負債合計		150,000
負債合計		10,430,405
III. 正味財産の部		
正味財産		966,110,082
(うち基本金)		(890,000,000)
(うち当期正味財産増加額)		(50,178,310)
負債及び正味財産合計		976,540,487

\*

\*昭和52年度、総資産3000万円でスタートした当財団は、平成12年度末で、総資産10億円弱の規模となりました。

## 福祉諸科学 研究助成先の決定

6月5日開催の福祉諸科学選考委員会において、2件の研究助成案件が承認されました。

研究内容は、障害者施設に入所する難病患者・重複障害者など、重度の障害者に対する質の高いケアのあり方を体系的にまとめることです。

現在のケア内容は、介護者の勘と経験に頼る部分が多く科学的視点から調査・研究することは有意義と判断し助成が決定しました。

助成先・助成金額は、次のとおりです。

1. 社会福祉法人 恵泉会 100万円 (青森県)
2. 社会福祉法人 七峰会 100万円 (山形県)



# 平成12年度社会福祉(自動車購入費)贈呈式掲載記事のご紹介

平成12年度、東日本地区を対象に実施した自動車購入費助成（1件あたり100万円、総額1,000万円）の贈呈式を、助成先の最寄りである安田火災の部支店長に、当財団有吉理事長の代理で主催して頂きました。

年度末の多忙な時期に、主催いただいた部支店の皆様に心から御礼申し上げます。

マスコミに掲載された新聞記事を、前回に引き続きご紹介します。（一部重複記事あり）  
 なお、本年度は西日本地区を対象に9月に申込を受け付ける予定です。

## 1. 3月7日付 神奈川新聞 （横浜支店主催・助成先：地域作業所 浜風）

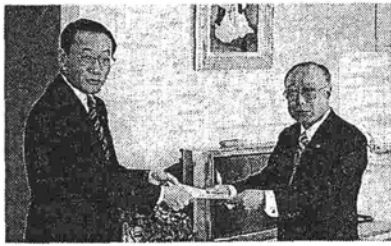
地域作業所に  
100万円を助成

安田火災記念財団

安田火災記念財団（有吉孝一理事長）は六日、横浜市保土ヶ谷区の地域作業所 浜風（今井好雄運営委員長）に百万円の助成金を贈った  
 写真。

同財団は毎年、社会福祉助成金を福祉施設などに贈っており、今年で二十三回目。これまでに八億六千万円に達した。

この日は、安田火災記念財団理事長代理者として渡



辺正作安田火災海上保険横浜支店長が同作業所を訪れ、今井委員長に「自動車購入資金として役立ててほしい」と手渡した。今井委員長からは「開所まもなく資金的に苦しい中、大変ありがたい」と感謝していた。  
 また同財団は、二〇〇〇年度NPO（特定非営利活動法人）設立助成として前件、三千万円の助成を行った。

## 2. 3月16日付 河北新聞

（仙台支店主催・

助成先：ソキウス仙台）

ソキウスせんだいに  
自動車購入費100万円

安田火災財団が助成

安田火災記念財団は本年度の社会福祉助成として精神障害者の自立支援活動を行う市民活動団体「ソキウスせんだい」（仙台市）に

活動用の自動車購入費百万円を先日贈った。

ソキウスせんだいは仙台市内で精神障害者グループホーム（入居者四人）と小規模作業所（通所者二十二人を運営し、第二グループホーム（五人）を四月一日に開設する。

## 3. 3月28日付 下野新聞[県北版]

（栃木支店主催・助成先：あしお障害者共同作業所「ほっとみるく」）

障害者作業所に  
100万円を助成

【足尾】安田火災記念

財団（理事長・有吉孝一）安田火災海上保険相談役）はこのほど、町の障害者共同作業所「ほっとみるく」（佐々木章所長）に、自動車購入資金として百万円を贈った。

同財団は今回、福祉活動などで自動車を必要とする団体を募集。全国から二百件を超える応募があり、選定の結果、十団体に計一千万円を助成することになった。

「ほっとみるく」は個人の乗用車で通所者の送迎しており、佐々木所長は「大変ありがたい。早速ワゴン車を購入し、さまざまな活動に活用したい」と喜んでいた。



助成金の目録を受け取る佐々木所長（右）

## 釜石市福祉作業所に100万円 助成金は車の購入に活用

財団法人・安田火災記念財団(理事長 有吉孝一)は十二日、釜石市千鳥町にある釜石市福祉作業所(近江健一所長)に対し、十二年度の社会福祉活動助成金として百万円を贈呈した。同作業所はこの助成金で車を購入、作業所で製造した製品などの運搬に活用することになっている。

同記念財団は昭和五十二年、安田火災海上保険の社会貢献活動の一環として設立された。基本財産は八億七千万円。社会福祉助成金は設立以来二十三回目で、助成金額の累計は八億六千万円。



十年度からはNPO(特定非営利活動法人)の設立支援に重点を置いて助成しており、本年度は百件に対して三千万円を贈呈。さらに活動援助を目的に、一千万円の助成を追加実施することになった。

今回の助成に対しては全国から九十四件の応募があり、この中から活動実績などが高く評価された十件を対象に助成金を贈ることになった。東北ではわずか三件で、県内では釜石市福祉作業所だけが対象となった。

釜石市身体障害者協議会(長谷川忠久会長)が運営する同作業所は昭和六十二年に開設され、現在、市内の身体、知的、精神の各障害者など二十二人が通所。空気圧機器メーカーの部品を下請けで製造しているほか、水産物の加工なども行っている。

助成金を活用して購入したのはワゴンタイプの軽乗用車で、製品の運搬のほか入所者の送迎などにフル活用することになっている。

## 5. 4月3日付 長野日報 (松本支店主権・

助成先：特定非営利活動法人  
ゆいまーる福祉会)

## 車購入に100万円

―安田火災記念財団―  
伊那のNPO法人助成



小島理事長へ目録を手渡す吉沢支店長

安田火災記念財団(有吉孝一理事長)は、二〇〇〇年度の社会福祉助成金として、伊那市のNPO(民間非営利団体)法人「ゆいまーる福祉会」(小島良一理事長)へ、自動車購入資金として百三十三万円を贈った。二日には、同会がある伊那聖書教会(同市中央区)で贈呈式を

件百万円)の助成を決め、県内ではゆいまーる福祉会が対象となった。

贈呈式には、安田火災海上保険の吉沢和男松本支店長らが訪れ、小島理事長へ目録を手渡した。自動車は、冬用タイヤが付いた軽乗用車だ。

吉沢支店長は「車を活用していただき、活動に寄与していただくと、大変うれしく思います。小島理事長は「これでわれわれの機動力も高まった。大切に使用したい」と感謝していた。

同会ではスタッフの移動や障害者の移送などに使用する予定だ。

6. 4月5日付 朝日シティーニュース

(神奈川中央支店・助成先：Cスクエアあじさい)



神奈川中央支店長の山口高寛さん(右端)、後列左から2番目は町田作業所連絡会代表の志田栄男さん、隣がCスクエア代表の天野貴彦さん

作業所へ助成金100万円  
安田火災記念財団贈る

障害者の在宅福祉活動を、また研究に対して財団賞を行う団体に対しての助成、実施している(財)安田火災

災記念財団(有吉孝一理事長)が、平成12年度助成先(10件1千万円)の1件を町田市忠生の作業所、Cスクエアあじさい(天野貴彦代表)に決定し、去る3月、贈呈式が行われた。今回は東日本の団体が対象となり、94件の申し込みの中から10件が選ばれた。活動実績があり、将来的展望を持ち、今後の発展が期待できる団体として同作業所に、安田火災海上保険神奈川中央支店の山口高寛支店長から、自動車購入資金100万円が贈られた。あじさいは、中途障害の人たちを対象にした共同作業所(現在は開設準備中)で、Cスクエアはお弁当を製造し、配達している。これまででは、福祉サービスの受け手だった障害者が、給食サービスの行うことで地域・社会に貢献する立場になり、社会的・経済的自立を目指している。

7. 5月9日付 埼玉新聞

(埼玉支店・助成先：特定非営利活動法人介助派遣システム)



介助派遣NPOに  
車両購入費を贈呈  
安田火災記念財団  
全国で社会福祉団体の支援活動を展開している安田火災記念財団(有吉孝一理事長)は8日、さいたま市栄和の特定非営利活動法人介助派遣システム(見形信

子代表)に平成十二年度の社会福祉助成金から百万円を贈呈した。写真。この助成金は障害者用車両の購入費に充てられる。贈呈式に出席した安田火災埼玉支店長の近藤繁雄氏は、「今後もさらに地域と一体となった社会貢献活動を推進していきたい」とあいさつ。贈られた側の見形代表は、「バリアフリーが叫ばれているが、障害者の外出はまだまだ難しい。今回の助成金でリフト付きの車両を購入し、少しでも障害者が出かけやすい環境に近づければ」と話した。同システムは昨年四月に設立。スタッフは六人。ホームヘルパー派遣・研修や相談業務などを通して、障害者自身が必要としている介助を育てていくシステムづくりに励んでいる。

寄付金の御礼

● 次の方々から寄付をいただきました。ありがとうございました。(寄付日順)

- 須田 暁 様、安田火災海上保険(株)様、吉田 修 様、
- 安田火災ネットサービス(株)様、西川茂樹 様、石上雅人 様
- 小方浩 様、馬場和人 様、田山泰之 様

